

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100663		
法人名	株式会社キリンの里		
事業所名	そよかぜのファミリーキリンの里		
所在地	鳥取市用瀬町鷹狩737-1		
自己評価作成日	令和元年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいおらいと		
所在地	鳥取県鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	令和元年12月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりに寄り添ったケアが出来るよう職員一同取り組んでいます。また、残存機能やADLの維持向上を目標として、「できることはご自身で、できない事のみサポート」を行うよう継続して心がけています。

また、できるだけ身体的・精神的な不安の軽減、認知症の進行が緩やかになるよう、日常生活の中でレクリエーション等を工夫して楽しい施設づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目となり、地域との交流は行事をはじめボランティアの方の参加も増えてきています。また、利用者は地元の方が多く、知人の訪問も時々あり、地域の老人施設の一つとしての認知や社会資源としての位置づけが確かなものとなっています。

また、管理者の細やかな対応など利用者の方が大切にされている雰囲気も感じられます。今後も地域の認知症の老人の支援施設として期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビング内に職員用ファイルを備え閲覧でき、また常に一目で理念を見ることが出来るようにリビング壁に掲示している。全職員が共通意識を持ち取り組んでいる。	毎月のミーティングで理念に沿ったケアが出来ているかの振り返りや意識づけが行われています。また、日々のサービスでの気づきや支援の向上について連絡ノートに記載され管理者が確認を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の用瀬ふれあい祭り・地区運動会・用瀬町地域福祉運動会などに参加。地域から声掛けがあったり公民館と連絡を取り合ったりしている。また、地産地消を考え地域のお米や野菜を購入している。	地域の各種行事に参加されていますが、入所者の年齢や身体的な状況により参加が困難となっています。しかし、外部からフラダンスサークル、オカリナ演奏、人権センターの方がクリスマスに参加するなど地域との関りが増えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修を受けキャラバンメイトとして、包括支援センターの職員らと地元地域の方々に認知症の人を家族が住みやすいまちづくりを推進するためにサポーター養成講座の講師役を務めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において協力医や町の福祉課や包括支援センター職員、家族等から頂いた助言を活かして、口腔体操、脱水防止の対策、鳥取市からの情報収集や利用者の対応の仕方などを有効活用している。	先回の改善事項として全職員が運営推進会議に参加することで、専門家による助言や会議の目的など職員の理解に繋がっています。また、日頃の支援についても意欲的に取り組まれる姿を見られるようになっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席された時に意見交換・情報交換を行っているほか直接出向いて相談もしている。 また、利用者の状況変化について必要に応じて随時連絡をしている。	職員が運営推進会議に参加することにより、行政の仕組みや役割などを理解し、顔なじみになることで、日頃の相談などもスムーズに行えるようになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際に身体拘束が必要な利用者の方が入居され支援を行う場面もあり、運営推進会議から他の利用者に身体、精神的な影響などの回避や、身体拘束についての手続きなど理解する機会や身体拘束の研修を行った。	実際の身体拘束や支援について、運営推進会議などで専門的助言を得ておられます。また、改めて身体拘束の対応や必要な場面など支援についての研修を行っておられます。一人ひとりの利用者のアセスメントを十分にを行い、必要な支援について考えるよい機会となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関係の研修会に参加、報告会で全員に周知している。また、外出などの際には虐待などについて気をつけるようにしている。また、些細なことでも職員間で話し合える職場環境作りに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加している。運営方針規定、権利擁護マニュアルを作成し、年間計画にもとづき職員ミーティングの際に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書にそって丁寧な説明に心がけている。また、本人、家族の疑問、不安点等には分かり易く説明して、理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員として、利用者、家族にも出席していただき、運営に反映している。また、面会時等に意見、要望等を伺い、スタッフ全員で共有するようにしている。	先回の改善事項として家族会を開催されましたが、参加された家族のほとんどが地元であり、家族の方から余分な個人情報や家族について聞かれ参加しにくいとの意見が出て、現在は開催されていません。	利用者の大半が地元であり、家族会のメリットが十分発揮できていません。今後は、個別に運営等に関する意見の聞き取り方に工夫が必要です。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の職員ノートに意見や提案を聞く機会を設けています。反映できるように努めている。ミーティングなど話が聞きとられています。	日々の支援において、職員ノートに書かれた意見・提案を活かし環境調整等を行ってられます。また、日頃から気軽に管理者に職員が意見を言えるよう雰囲気づくりや環境の設定に努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心、やりがいをもって働ける職場環境作りに努め、職員の意見、要望等をミーティング、個別に対話する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるよう取り組んでいる。個々のケアの実際と力量にあった研修の周知、参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症のキャラバンメイト活動を通して地域の同業者と交流をしている。また、包括支援センター主催の管内事業所研修会に参加し、サービス向上への取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には施設の見学をお願いし、不安な事等を聞き、安心して生活していただけるよう努めている。 各職員の勤務経験から利用者の関係を築くための取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明の際に、家族の思い、不安なこと等に耳を傾け、納得、安心していただけるように努めている。 面会時には近況等も伝え、要望等をお聞きする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援計画や他機関からの情報をもとに、本人、家族と対話する中で、最善と思われる支援につなげるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いを十分把握し、日々の生活において、安心して生活してもらえるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者及び担当職員ができるだけ連絡を取る機会を設けるように努めている。 また、気軽に立ち寄っていただける雰囲気づくりに努めている。管理者が定期的に家族へ状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や、友人関係の方も訪問しやすい雰囲気作りに努めている。 馴染みの場所等へドライブする等により関係が途切れないように努めている。	引き続き馴染みの近所の方が訪問されています。訪問の際には個室などの利用やテーブル・椅子を提供するなど、訪問しやすい環境や体制が整えられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の特徴から、テーブル、ソファの配置を工夫している。 複数の利用者様が関われるような馴染みの話題等を職員が仲立ちをするよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性や要望に応じ支援を行こなっている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイル、生活環境及び思いや、意向を把握するように努めている。	日頃から支援の機会などを活かして、一人ひとりの生活スタイル、生活環境や思いをくみ取るように努めておられます。困難な場合は、本人本位や家族から聞き取るなどできるだけ意向に沿うようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族及び関係機関等と話し合いを持ち、生活環境等について把握に努めている。 また、入居後においても生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活動作、会話や表情等により現状の把握に努めている。 医療機関と連携し、身体状況についても把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の連絡帳から職員でカンファレンスを開き必要に応じてミーティング、本人、家族等と話し合いの場を設け、主治医の助言を頂きサービス担当者会議に発展させて介護計画に取り入れている。また、モニタリングによる評価を定期にしている。	担当職員がアセスメントシートを記入、それを基に複数の職員で意見交換やモニタリングを行い介護計画の見直しをされています。。家族の方には、面会時や電話で希望や意見を聞き介護計画に反映されています。	支援内容は利用者一人ひとりの状態に対応した計画作成が必要ですが、変化が激しい利用者もおられます。今後も引き続き現状を反映したプランとなるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活動作表等に記録し、職員間で共有しながら状況の変化や問題点をカンファレンスし、サービス担当者会議に発展させて解決に向けて介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族等と相談の上、日用品購入やかかりつけ医への受診及び行政等への提出物等について付き添いなど行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めており、有効活用、地域へ溶け込むような取り組みに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの主治医への受診や、当事業所の協力医への定期受診を行い、適切な医療を受けていただいている。 また、受診結果の家族への報告も行っている。	これまで受診していた主治医には継続して通院等が行われています。また、日頃の健康面などの相談や定期受診は近くの協力医で行われています。運営推進会議にも協力医が参加されよりよい関係が保たれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は配置されていない。又、訪問看護の利用も現時点でないが、必要に応じて医療及び看護師と連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が医療機関を利用する病院との連絡をとり、入退院時及び緊急時も含め情報交換を行いいつでも対応可能な状況としている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期についての説明を行っています。また、重度化が進んだ場合は、家族等の意向を伺いながら、主治医の意見も含め協議していくこととしている。	家族には契約時に説明がおこなわれています。また、緊急時や変化があった時の対応についても家族・協力医療機関と十分な話し合いを行い対応されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル等により、初期対応等の周知、徹底を職員ミーティングで行っている。急変時等の対応については、協力医師と速やかに連携できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、職員ミーティング等で周知している。年2回の防災訓練を行い、防災マップをもとに各災害に対する避難場所等の確認を行っている。地区の区長を通し、地域の方々にも協力をお願いをしている。	防災マップをもとに各災害に対する避難場所等の確認をされています。 緊急時には地域の方々にも協力していただける体制が取られています。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性やペースを尊重した言葉かけに努めるとともに、排泄、入浴等プライバシーに配慮した支援を心掛けている。	ホームの運営規定に沿って職員に周知されています。 また、日々の支援で人格尊重やプライバシーについて気づきがあれば、連絡帳に記載するなど共有され改善点などがあればミーティングを開催し対応を検討されています。	利用者の方の症状の変化はありますが、個人の尊厳やプライバシーは変わりません。今後、虐待などを含め職員の意識向上のための研修の開催が期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話や様子をみながら、ご本人の思い等が出易い声掛けやゆったり聴く等を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に支援を心掛けており、その人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服については、個人の好みを尊重し、季節や入浴時に聞き取られ支援を行っている。移動美容院を利用される方は、業者の違いを説明したり支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物を聞き取りして提供している。また、本人のその日様子をみながら、食材の皮むき等下ごしらえから調理、食事の盛り付けなどを職員と共に楽しんで行ってもらい食べて頂いている。片付けも協力してもらっている。	季節の野菜の差し入れや地元の食材が使われています。利用者の希望や中秋の名月等四季折々の行事を取り入れ食事内容を工夫したり、利用者が積極的に調理に参加する機会を作っておられます。また、職員自らも料理を作るなど食事のメニューも豊富です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に合わせた食事、栄養バランスを考えた食事を提供している。水分、食事の摂取量の把握を行い、確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの方に合った支援を行い、毎食後の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェック表により把握し、それぞれの方に合った排泄介助を行っている。ご本人と相談の上、紙パンツ使用の方は、布パンツに替えてみる等の自立に向けた支援も行っている。	排泄パターンを把握され、当日の体調を見ながら声かけ、誘導が行われています。また、排泄の状況の把握は利用者一人ひとりにあった対応が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関への相談を含め、水分摂取量、食物繊維を多く含んだ食材の提供等を心掛けている。また、便秘予防の運動等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日等は決めていないが、入浴の記録を参考に、間隔が開き過ぎないように配慮し、意思を確認している。自分のペースで入浴を楽しんでもらえるように支援している。	入浴の記録を基に清潔が保てるよう配慮されています。入浴前にはバイタルチェックが行われ、健康への配慮がされています。できるだけ、自分のペースで入浴を楽しんでもらえるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に応じた休息の支援を行っている。室内の温湿度等に気を配り、過ごしやすい環境に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は職員間で共有し、服薬時には2人の職員が確認、服薬の対応が行われている。また、利用者の状態に合わせた服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の能力に合ったゲームや役割を職員とともに考え行ってもらっている。季節感のある行事を行い、気分転換等の支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等にもよるが、日光浴や散歩、草むしり等希望に沿うよう、戸外に出る支援に努めている。また、ご家族にも協力していただき、ご本人の意向に沿えるよう努めています。	日頃から天候を見ながら日光浴や散歩などを行うよう心がけられています。最近では紅葉狩りに行くなど季節に合わせ可能な限り外出が計画されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持つことができる方は所持されており、日用品等必要な物品を職員とともに、商店で購入される等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をできる方については、電話の取り次ぎを行っている。手紙のやり取りを行う利用者はいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快、混乱をまねくような刺激がないように、居心地の良い環境提供を心掛ける。生花を活ける、壁画や飾りを工夫し、季節を感じてもらえる工夫をしている。	施設内の環境については、自動の湿度、温度調整などのほか、職員の体感温度などを含め細やかな調整が行われています。また、壁画の装飾や生け花など落ち着いた空間となるよう努めておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はその時の雰囲気や状況により居場所を変えたり、気の合う人同士が過ごせるよう、ソファや椅子の配置を変える等の配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただいたり、趣味で作成した物等を居室に飾る等により、居心地よく過ごせる工夫をしている。	特に制限はなく、使い慣れたものを持ってきていただいたり、趣味で作成した物等を居室に飾る等により、居心地よく過ごせる工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部にはそれぞれ、トイレ、脱衣所及びリビング等の表示を工夫し、分かりやすさや安全に配慮した工夫が行われ、戸惑い等の混乱を防ぎ安全な環境作りに心掛けています。		